

令和7年度

地域と学校の連携による
児童生徒の地域実践力向上のための
サマーワークショップ

実施報告書



木城町教育委員会

I 実施について

1 実施目的

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域での交流機会が減少し、地域における連帯感の低下が指摘されている。このことは、今まで地域が担ってきた「地域での教育機会」の減少にも関連するとともに、子どもたちの地域への愛着「郷土愛」にも影響することが懸念される。

このようなことから、「ふるさと学習」に含めた地域の公民館を活用したモデル的な体験活動を実施することで、子どもたちの地域での活動促進、実践力の向上を図る。

2 実施対象

みどりの杜木城学園 6年生、8年生

3 実施日時

令和7年7月25日（金） 午後2時00分から午後3時30分

4 実施主体・協力組織・団体等

木城町自治公民館連絡協議会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、さんさんクラブ、地域婦人連絡協議会、木城っ子見守る隊、九州医療科学大学、地域活動サポーター（高校生）、みどりの杜木城学園、木城町教育委員会 他

5 実施場所

出店公民館、中椎木公民館、岩渕公民館、中川原公民館、町（高城）公民館、御池公民館

6 実施内容（グループワーク：室内・屋外の実施人数を調整）

（1）6年生：地域安全ワークショップ

- ① 地域における危険個所の確認（河川、用水路、ため池、道路・交差点等）
- ② 心肺蘇生法・AED活用に関する体験学習

（2）8年生：地域防災・減災ワークショップ

- ① 災害時避難に関する実地体験（避難時間の測定）
- ② 防災・減災に関するタイムライン作成実習

7 当日日程

13:00～14:00	学校から活動場所までの移動
14:00～14:20	オリエンテーション
14:20～15:20	サマーワークショップ（屋内・屋外で30分ずつ活動）
15:20～15:30	活動まとめ
15:30	解散・帰宅

8 その他

（1）地域安全ワークショップ準備

- ・ 心肺蘇生法・AED操作法
東児湯消防署に借用 → 各公民館に持参

（2）地域防災・減災ワークショップ準備

- ① パソコン及びWIFI → 通信状況の確認
- ② 福祉体験関連機材
高鍋町社会福祉協議会から借用 → 各公民館に持参

（3）安全面への配慮

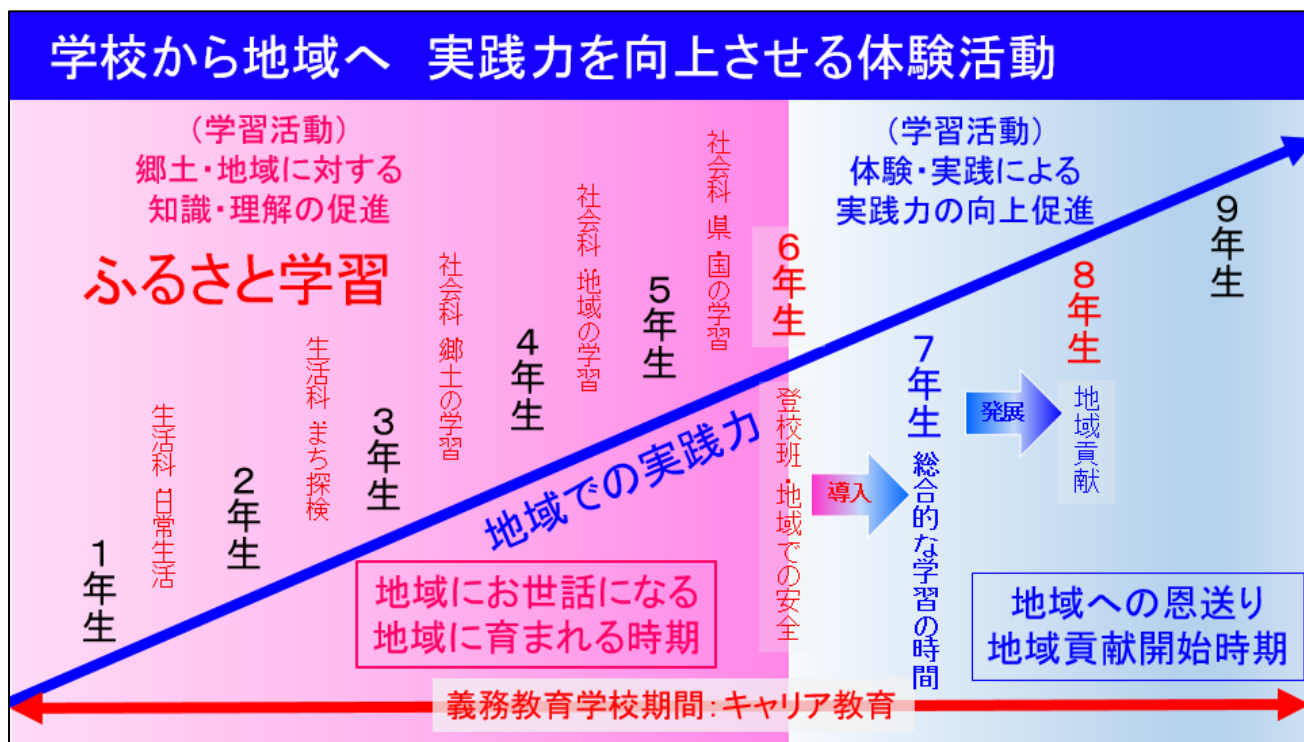
- ・ 特別活動（授業の一環）として実施する。（日本スポーツ振興センター適応）
- ・ 木城っ子見守り隊の支援を受け、モデル公民館へ移動する。自転車通生は、現地集合とする。
- ・ 各指導者の指示により活動する。適宜、担当学年教諭の支援を受ける。
- ・ 活動後は、現地解散とする。小丸川以北会場のバス通生は、公用車で移動する。

Ⅱ サマーワークショップ分析・総括

1 実施対象学年の設定について

みどりの杜木城学園では、キャリア教育の一環として義務教育学校9カ年を通した「ふるさと学習」が展開されている。前期課程においては、校内外の活動を通して「ふるさと木城町」を学ぶ取組を行っている。後期課程では、前期課程での活動を受け、今後の進路を確立するとともに広く地域に貢献する活動について取り組んでいる。特に7年生では、総合的な学習の時間において、関係機関・組織団体等と連携しながら地域の課題を分析し、自分たちが貢献できることを探求する活動を実施している。

このようなことを受け、7年生での活動の導入につながる6年生と、発展的に地域貢献につながる8年生を実施対象学年とした。



2 実施場所の設定と参加人数について

本来、児童生徒の活動場所は「自治公民館」単位ではあるが、今回の実施にあたっては地理的な条件を考慮し、6つのモデル公民館（以下「モデル公民館」と記す）で実施することとした。



番号	実施場所	6年生	8年生	ボランティア・指導者等	合計	備考
1	出店公民館	18	17	13	48	6グループ
2	中椎木公民館	14	12	8	34	5グループ
3	岩渕公民館	9	6	7	22	3グループ
4	中川原公民館	4	6	6	16	2グループ
5	町（高城）公民館	5	5	6	16	2グループ
6	御池公民館	6	3	5	14	2グループ
総 計		56	49	45	148	20グループ

3 モデル公民館と児童生徒居住地区について

モデル公民館と居住地区の距離や、遠距離バス通学生への対応としてモデル公民館と学校との距離を考慮し、次のように設定した。

出店公民館	出店、重木、四日市、池田住宅、中原、溜水、百合野、櫛野、石河内、町外
中椎木公民館	田畑、中椎木、一向瀬
岩渕公民館	岩渕、比木、リバーサイドコスモス
中川原公民館	中川原、向河原・立山住宅、中河原住宅
町（高城）公民館	町、下鶴、在南、湯屋ヶ坂、立小路、平城、岸立団地
御池公民館	田神、岩戸、新岩戸、北山、木寺

4 協力組織団体・人数について

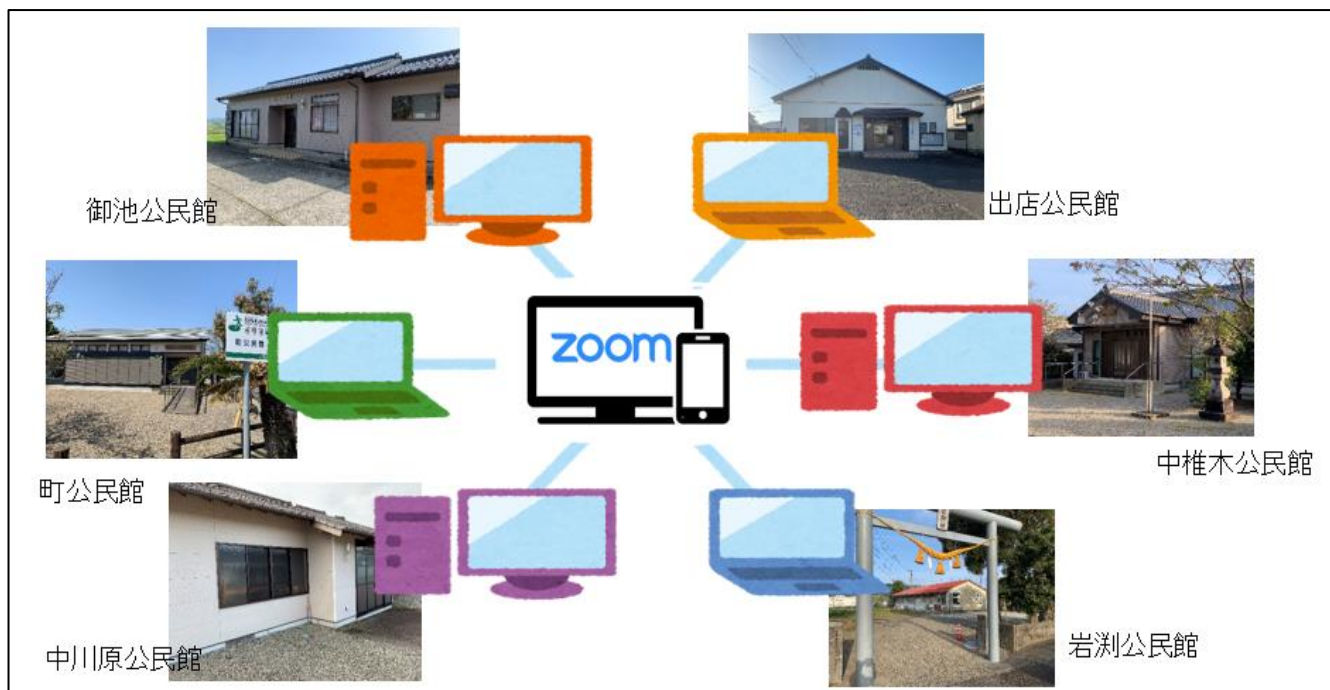
初年度である本年度は、関係機関・団体等に活動の趣旨・実施内容の事前説明を行い、協力者を募集した。また、本年度から実施している「次世代地域活動貢献人材育成」に係る「地域活動サポーター」の大学生、高校生にも協力を案内し、当日のコーディネーター役として運営・進行をお願いした。

	出店	中椎木	岩渕	中川原	町（高城）	御池	総計
地域婦人連絡協議会	4						4
民生委員・児童委員	1	1				1	3
さんさんクラブ			4				4
木城っ子見守る隊	1			1	1		3
社会福祉協議会	1	1	1	1			4
自治公民館連絡協議会						1	1
九州医療科学大学	1	1	1	1	1	1	6
地域活動サポーター	1						1
東児湯消防署	3	1		1			5
教育委員会・学校	1	4	1	2	4	2	14
総 計	13	8	7	6	6	5	45

5 実際の活動について

(1) 同時共通活動

6会場での実施となるため、各公民館にパソコン、モバイルWi-Fiを設置し、開会行事や説明、活動まとめでZOOMで同時配信した。



開会行事の様子（自治公民館連絡協議会長あいさつ、活動趣旨説明：ZOOM）

(2) 活動内容

2学年が同時に活動することとなるため、公民館内外に分けて実施した。

時 刻	6 年 生 の 活 動	8 年 生 の 活 動	備 考
13:00～14:00	モデル公民館への移動（学校→公民館）		
14:00～14:20	開会行事（自公連会長あいさつ、趣旨説明等）		同時配信（ZOOM）
14:20～14:50	①公民館内での活動 ・心肺蘇生法・AED操作法	③公民館外での活動 ・要支援者の避難体験	
14:50～15:20	②公民館外での活動 ・地域危険個所の確認・まとめ	④公民館内での活動 ・避難行動タイムライン	④同時配信（ZOOM）
15:20～15:30	閉会行事（教育長まとめ、諸注意）		同時配信（ZOOM）
15:30～	帰宅（公民館→自宅）		

< 6 年生の活動 >

① 心肺蘇生法・AED 操作法体験

東児湯消防署員、石橋美亜子 氏（救急看護資格者）、杉尾和幸 氏（東児湯消防署OB）、大津 新 氏（防災士）が講師となって活動を実施した。

（活動内容）

- ・「世界溺水防止デー」（7月25日）の周知
- ・水難事故防止への注意喚起
- ・水難事故に遭遇した時の対応
- ・心肺蘇生法の体験
- ・AED 操作法の体験
- ・夏休み期間中の事故注意喚起 等



② 地域危険個所の確認・まとめ

事前に各モデル公民館周辺のコースを設定し、協力者とともに活動を実施した。

（活動内容）

- ・地域を巡回し危険箇所を確認
- ・公民館に戻って地図上に危険個所を記録
- ・地域の危険箇所の情報共有
- ・日常生活における危険回避への意識付け 等



< 8 年生の活動 >

③ 要支援者の避難体験

事前に各モデル公民館周辺のコースを設定し、協力者とともに活動を実施した。

（活動内容）

- ・福祉体験用具の着用→支援の必要性認識
- ・要支援者の避難行動体験
- ・避難に対する支援内容の確認
- ・避難経路や必要時間の確認
- ・「共助（互助）」の必要性認識 等



④ 避難行動タイムライン

モデル公民館をZOOMでつなぎ、大津防災士が講師となって活動を実施した。

（活動内容）

- ・避難に対する意識喚起
- ・避難情報（警戒レベル）の確認
- ・ハザードマップの確認
- ・マイ・タイムラインの確認・作成
- ・各自の居住地での避難方法確認への意識啓発 等



みどりの杜地域空間 6 年 組（氏名）		
時刻	ワークショップ1 （前期研修6年生）	ワークショップ2 （後期研修6年生）
14:00～	活動の意義説明・活動の目的・希望の発表	
14:20～		
14:30～	①避難経路・AED体験	②地域における避難行動の確認
14:50～	③地域における避難行動の確認	
15:20～	④防災・減災に対するタイムライン作成	
～15:30	活動のまとめ・確認書（研修者の注意）	
＜ミッション＞ 避難経路・AED体験を確認しよう！ ＜課題＞ 避難経路を確認し、自分の避難方法を考えよう！ ＜実施場所＞ 公民館 ＜実施日時＞ 令和5年7月25日 ＜実施者＞ 大津 新 ＜実施内容＞ ①避難経路・AED体験を確認しよう！ ②地域における避難行動の確認 ③地域における避難行動の確認 ④防災・減災に対するタイムライン作成 ⑤活動のまとめ・確認書（研修者の注意） ＜実施場所＞ 公民館 ＜実施日時＞ 令和5年7月25日 ＜実施者＞ 大津 新 ＜実施内容＞ ①避難経路・AED体験を確認しよう！ ②地域における避難行動の確認 ③地域における避難行動の確認 ④防災・減災に対するタイムライン作成 ⑤活動のまとめ・確認書（研修者の注意）		

**ご自宅に戻ったら
みなおしてみよう**

ご自宅や周辺のリスクを
確認する

避難先や避難ルート
を具体的に決める

ご家族の構成をふまえて、
行動のタイミングを考える

今日作成した
マイタイムラインをもとに、
ご家族や地域の方と話し合ってみよう

作成したマイタイムラインを活用し、
「自分の避難」を手にいれよう！



(3) モデル公民館での主な活動の様子

① 出店公民館



東児湯消防署員による心肺蘇生法・AED 研修



要支援者の避難に関する体験

② 中椎木公民館



社会福祉協議会の方との情報交換



東児湯消防署員による心肺蘇生法研修

③ 岩瀬公民館



自治公民館（防災士）の方との情報交換



突然の豪雨の中での地域危険個所の確認

④ 中川原公民館



要支援者の避難に関する体験



木城っ子見守り隊の方と地域危険箇所を記録

⑤ 町（高城）公民館



木城っ子見守り隊の方・教育委員会職員と地域危険箇所を記録



要支援者の避難に関する体験

⑥ 御池公民館



民生委員の方と地域危険箇所を記録



自治公民館長と災害時避難のまとめ

⑦ 地域活動サポーター（大学生・高校生）活動の様子



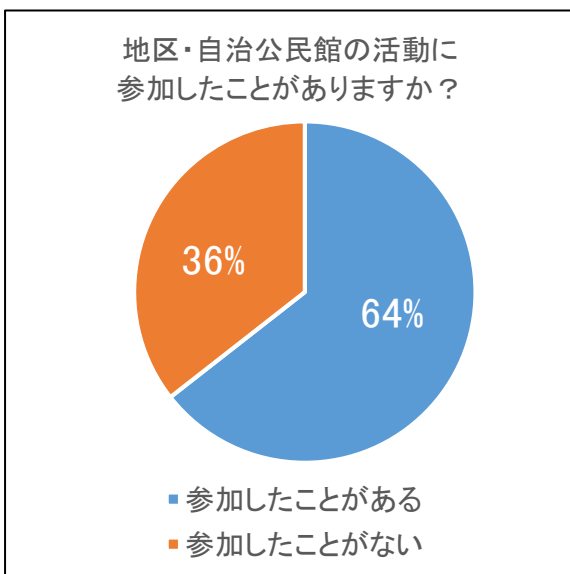
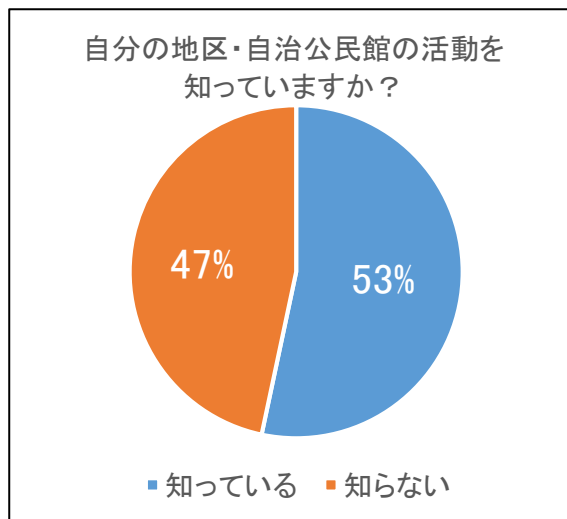
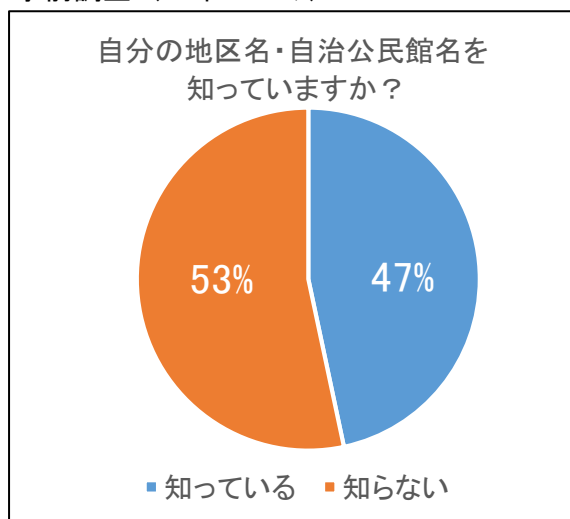
進行役 左：大学生 右：高校生



進行役 大学生

6 児童生徒へのアンケート、ボランティアからの意見・感想

(1) 事前調査（８年生のみ）



どのような活動に参加したことがありますか？

ごみ拾い 水神講 ジャンボタニシ駆除
 子ども会活動（クリスマス会、お別れ会）
 もぐら打て 空き缶拾い 敬老の日大会
 トイレ掃除 餅つき 秋祭り そうめん流し
 防火活動（火の用心） ボランティア活動
 ハロウィン スケッチ大会 コスモスパティー等

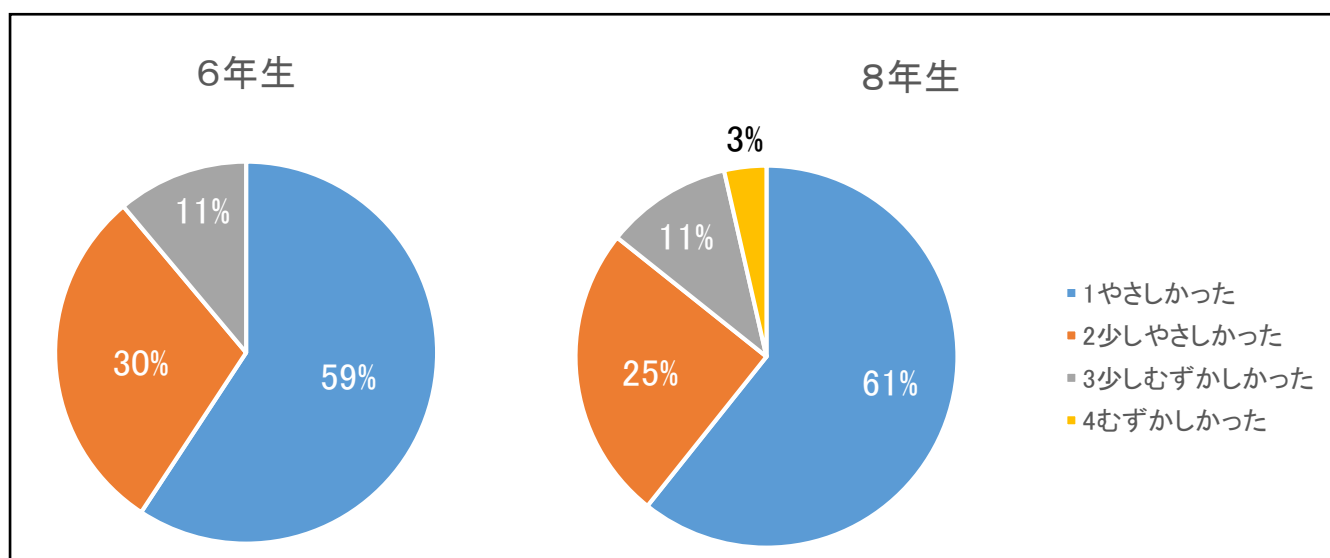
※ごみ拾い、水神講、クリスマス会、お別れ会、もぐら打て、餅つき、秋祭り、防火活動、スケッチ大会、コスモスパティーを書いている生徒は、「地区名・自治公民館名を知っている」と回答している。

【 考 察 】

○特定の自治公民館で定期的に活動が実施されていることが、地区名・自治公民館名を認識することや活動への参加促進につながっていると考えられる。

(2) 事後アンケート（回答率：6年生 48.2% 8年生 57.1%）

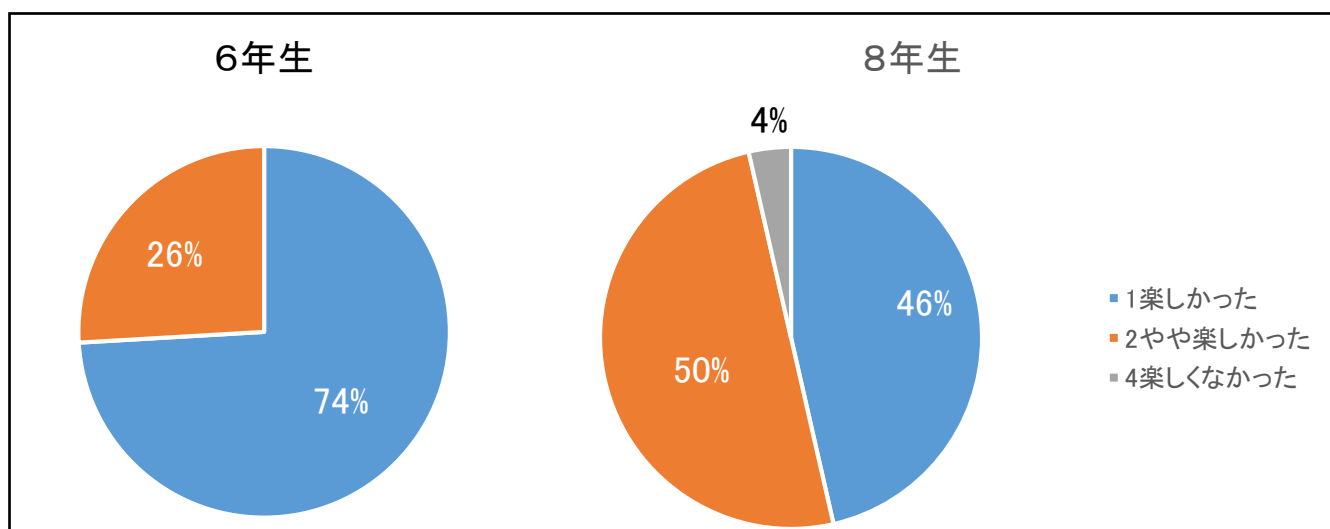
① 活動内容は、やさしかったですか？むずしかったですか？



【 考 察 】

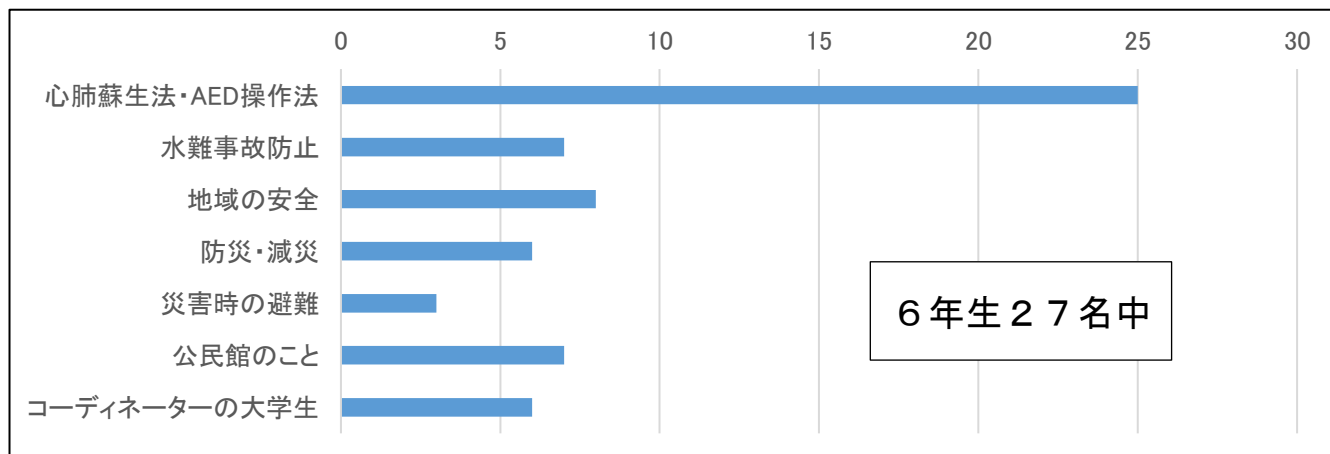
○ほとんどの児童生徒が活動内容を充足していると考えられる。8年生の一部が、むずかしく感じているのは、「地域の防災・減災」という視点の内容だったからではないだろうか。

② 活動を終えてどう感じましたか？

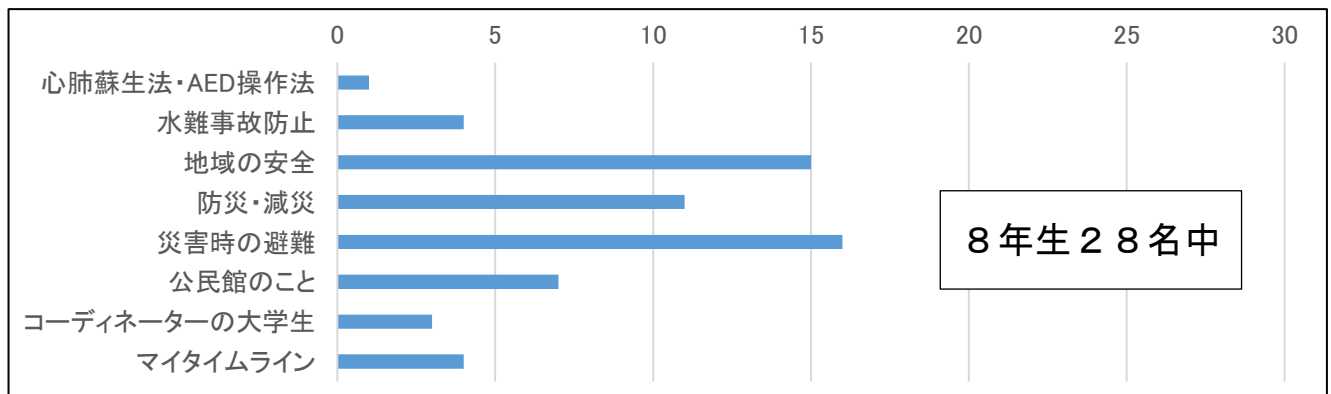


【 考 察 】

○ほとんどの児童生徒が活動を好意的に受け止めていると考える。8年生には、活動の難易度に関連して「楽しくなかった」と感じた生徒がいたと考えられる。



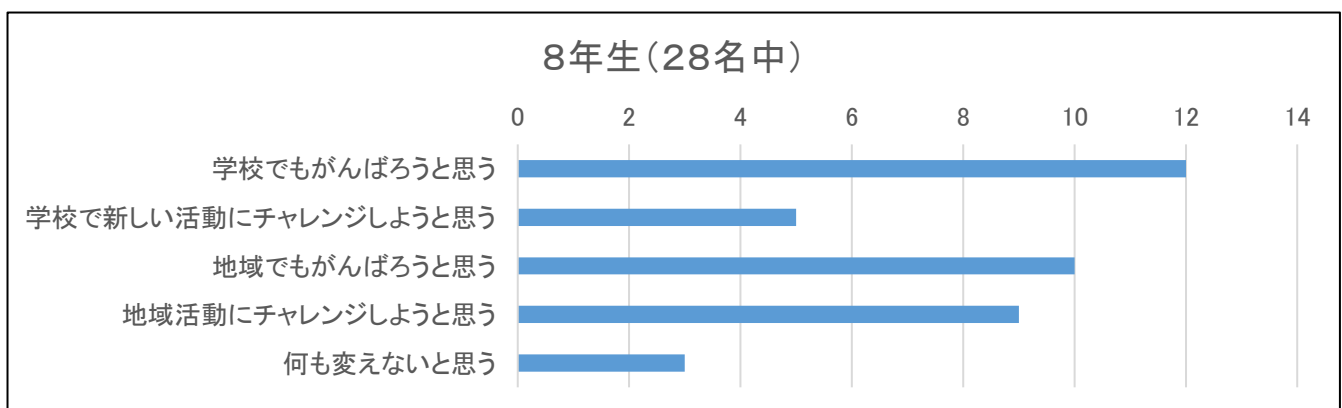
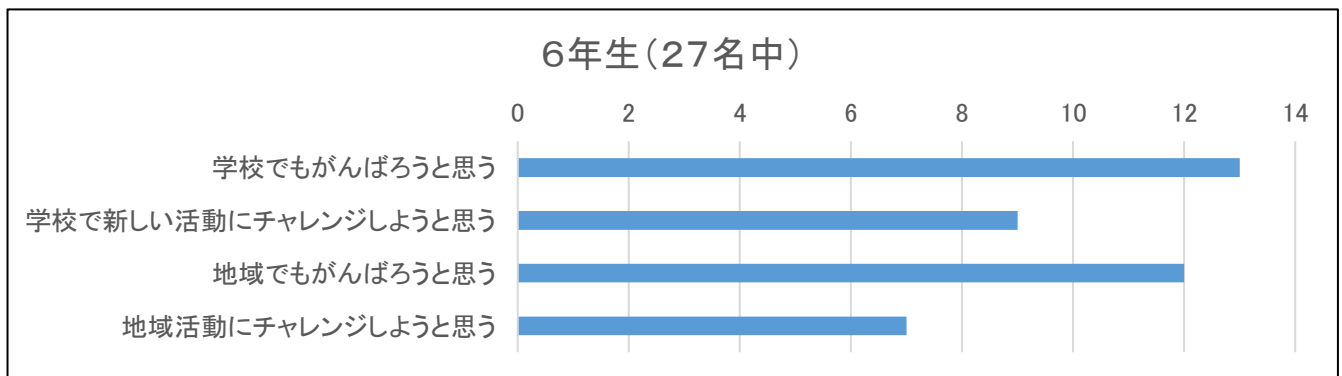
③ 活動で印象に残ったことは何ですか（いくつでも）



【 考 察 】

○それぞれの活動内容に関連し6年生では「心肺蘇生法・AED操作法」、8年生では「災害時の避難」が上位を占めている。6年生では、「水難事故防止」の内容も盛り込んだが印象が低かった。逆に8年生では、「災害時の避難」に関連し、「地域の安全」「防災・減災」「マイ・タイムライン（個人避難計画）」の印象が高かった。

④ 活動を受けて、これからどのように行動しようと思いますか

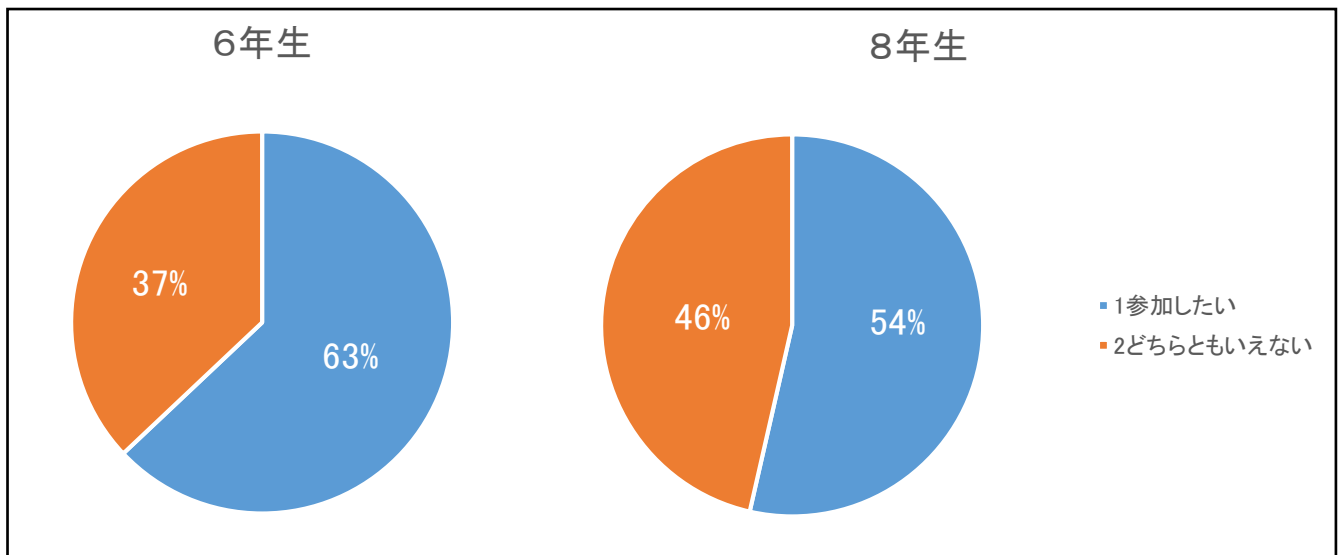


【 考 察 】

○6年生では、「学校」「地域」それぞれの活動への意欲喚起につながったと考える。また、新たな活動へのチャレンジ意欲もみられる。8年生では、6年生同様に「学校」「地域」それぞれの活動への意欲喚起につながったと考える。しかし、新たな活動へのチャレンジ意欲では、「学校」での活動面が低く、「何も変えないと思う」という消極的な意見も見られた。



⑤ このような機会があれば、参加したいと思いますか？



※「参加したくない」という回答はなかった。

【 考 察 】

○半数以上の児童生徒が、同様の活動への参加意欲を示している。「参加したくない」という消極的な回答は見られなかった。

(3) ボランティアからの意見・感想（聞き取り）

- 地域の公民館を活用した新たな取組であり、子どもたちにとって新鮮かつ有効なものであると考える。
- 途中、大雨に見舞われ、ずぶ濡れになった児童生徒もいた。健康面への配慮は必要であるが、今まで経験したことがないだろうから、貴重な経験にはなったのではないだろうか。
- ZOOMの状況が悪く、音声聞き取りにくい面があった。事前の準備を十分に行うとともに、不測の事態への対応体制の整備も必要である。
- 学校以外の場所での学びは、子どもたちに新たな視点を与えることにつながると思う。
- 「地域のことは地域で学ぶ」という取組として良いことだと思う。
- 公民館への移動に関する安全面への対応を充実する方が良い。
- もう少し早く関係機関・団体等への周知を図れば、支援体制（ボランティア）もより充実すると思う。
- 子どもたちとともに活動することで、自分たちの学びにもなった。

7 総 括

教育課程に位置付けられていなかった今回の取組を、みどりの杜木城学園のご協力、当日の関係組織・団体等のご支援・ご協力により、本年度初めて実施することができました。また、モデル公民館にパソコン、モバイルWi-Fiを設置し、ZOOMで双方向につなぐことで、同時に活動を展開する新しい取組も実施することもできました。

今回の取組を通して、地域に生き、地域の未来を担う子どもたちの豊かな学びには、地域と学校が連携・協働することが重要であると再確認することができました。「何のために学校で学ぶのか。」また、「学校で学んだことをどのように生かすのか。」その答えは地域にあり、地域はまさに学校での「学び」を生かすフィールドであるといえます。モデル公民館を学びの拠点として、「地域の安全」「地域の防災・減災」をテーマに「サマーワークショップ」を実施することで、子どもたちに地域・公民館を意識付けることができたと考えます。さらに、地域の拠点である公民館で、関係機関・団体等の方々と共に体験し、学ぶことで、地域での実践力の向上につなげることができたのではないのでしょうか。

今後、ご指摘いただいた課題に改善・工夫を加えることで、さらにこの取組の充実を図っていきたいと考えます。